

# 青春スクロール

母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>

## ど根性、営業に活用／どう工夫すべきか

「人生で初めて好きになつた学校」と話す鈴木

経済界で活躍する多摩高校の卒業生は多い。急成長を続けるLINE社長の森川亮（47、1985年卒）、トヨタ自動車副社長の前川真基（64、68年卒）、電源開発会長の前田泰生（63、69年卒）もOBだ。

NEC執行役員常務の木下学（60、73年卒）は陸上部員。3年目の県大会は修学旅行と重なり、顧問不在で戦った。アンカーライターを務めた1600mリレーでは、2位でバトンを受けたが2人に抜かれて4位に。関東大会では逆に2人を抜き、山形での

経済界で活躍する多摩高校の卒業生は多い。急成長を続けるLINE社長の森川亮（47、1985年卒）、トヨタ自動車副社長の前川真基（64、68年卒）、電源開発会長の前田泰生（63、69年卒）もOBだ。

NEC執行役員常務の木下学（60、73年卒）は陸上部員。3年目の県大会は修学旅行と重なり、顧問不在で戦った。アンカーライターを務めた1600mリレーでは、2位でバトンを受けたが2人に抜かれて4位に。関東大会では逆に2人を抜き、山形での

### 多摩高校 5



童顔のため一見、取締役には見えない木下鉄平



サッカー選手ヨハン・クライフに憧れていた藤井

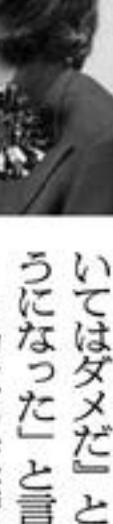
高校総体出場を決めた。「スポーツは結果も大事。負けず嫌いの精神は営業で役立つた」

本部長の木下鉄平（35、97年卒）も陸上部員だった。入学時に身長が140cmなく「球技は諦めた」という。3年の11月、受験勉強そっちのけで走った高校駅伝では2人抜き。「練習した分だけタイムは良くなり、サボれば遅くなつた。天才でなくとも、チャンスは誰にでもある」と学んだ」と話す。

みずほ銀行専務の藤井信行（55、77年卒）はサッカー部員。「生物の授業中に破れたボールを縫つていたら、先生から

「いくら蹴つても、藤井の子どもが生まれながらにサッカーがうまくなることは、遺伝的にはない」と言われた。ユニークな先生が多かった」と笑う。

日本コカ・コーラ副社長の鈴木祥子（46、86年卒）は「教科書をそのまま教えない。テストもCMのコピーを並べて『感じることを述べよ』みたいな問題だった」。学校や河原で友達と



自動車の販売や整備を手がけ、J2湘南のスポンサーでもあるサンオータス社長の北野俊（46、86年卒）はサッカー部員だった。合宿の最終日は走って山中湖を1周。厳しい練習を通じて「無理と思つたことでも、どう工夫すれば出来るのかを考える習慣がついた」と話す。

川崎信用金庫理事長の草壁悟（60、72年卒）は軽音楽部

朗（60、72年卒）は軽音楽部

「ニュー・フォーク・メッセンジャー」でウッドベースを担当。「自分のクラスを抜け出し、面白い漢文の授業に紛れ込

んでいた」と思い出を語る。

JJAセレサ川崎組合長を経て、JA県中央会・連合会副会長を務める高桑光雄（66、66年卒）は実家の農業を手伝い、配達を兼ねてオートバイで通学した。「自宅がある柿生（川崎市麻生区）は農家ばかり。高校がある宿河原（多摩区）まで来る」と『街に出てきた』と感じたのを思い出す」と振り返る。

すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

◎ 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。